

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。		自己評価	成果等
目標 1	【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	II	2名の教員がサバティカル制度を活用するとともに、令和3年度に本制度を終了した2名の教員の研究業績報告会を実施した(研究成果: 科研基盤研究(B)採択、月刊誌連載 計10回)。 昨年度、外部資金手当制度を導入した2号年俸制適用職員は昨年度から43人増加し、131人となった。
戦略 1	教員の業務の見直しやサバティカル制度を活用するなど研究時間の確保に努めると共に、外部資金及び科学研究費補助金の獲得に対する給与へのインセンティブの付与等、教員の研究環境を改善する。	II	2号年俸制適用職員数は増加しているものの、1号年俸制や月給制職員からの転換は進んでいないため、転換に向けた取組を強化する。
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<ul style="list-style-type: none"> ①各学系・学部・研究科においては、サバティカル制度を活用することによる研究時間を確保し、サバティカル終了後、サバティカル期間の研究に基づく研究業績を1件以上報告させる。【(14)-1-①】 ②教員の研究環境の改善を図るため、外部資金によるインセンティブ付与の一環として、バイアウト制度等を整備する。【(14)-1-①】 ③在籍する教育職員に対して2号年俸制適用職員のみ適用される外部資金手当(獲得した外部資金額に応じた手当額の支給)の周知を行うことにより2号年俸制への転換を促進するとともに、外部資金の獲得額を増加させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①研究専念教員(仮称)制度を設定する。 ②バイアウト制度等を導入する。【(14)-1-①】 ③研究時間の確保や教員の研究環境改善の結果、教員あたり査読付き論文数を1.05編とする。【(14)-1-①】 	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	II	20 名の若手・女性教員に対して、科学研究費補助金獲得支援を行うとともに、研究助成情報の提供等の支援を行い、若手教員 1 名が財団研究助成(ホソカワ粉体工学振興財団)に採択された。	
【戦略 2】 研究者を個々に孤立させないための研究体制の改善や研究費の配分等、若手・女性・外国人教員に対する研究支援を充実する。	III	外国人教員向けの英語版「科研費の教科書」を作成するとともに、全外国人教員のメーリングリストを使った情報配信による支援を開始した。また、科学研究費補助金獲得支援事業にて 6 名の教員に対して申請支援を行った。	
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	自己評価	令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ①研究マネジメント委員会は、学部・研究科と連携して、若手・女性・外国人教員が採用された際に、新規採用教員の研究環境を整備するため、オープンイノベーション推進本部のスタートアップ経費を含めて、具体的な方策について立案し、実施する。 ②学長裁量経費（機能的戦略経費）においてプロジェクト B により、研究実績の優れた若手・女性教員に対して研究費を支援し、科研費など外部資金申請への支援を実施する。【(14)-1-③】 ③外国人教員が採用された際には、国際センター、国際課外国人教員支援コンシェルジュと各採用部局が連携して早期の研究着手を支援し、着手後はさらにオープンイノベーション推進本部とも連携し、外部資金獲得のための支援を実施する。 ④オープンイノベーション推進本部と研究マネジメント委員会は、若手・女性教員に対して科研費獲得支援（アドバイザー配置による支援と調書ブラッシュアップ支援、あわせて 30 名以上）、財団などの研究助成情報の提供・フォローアップ・申請書添削などの支援（40 名以上）を行う。【(14)-1-③】 ⑤オープンイノベーション推進本部と研究マネジメント委員会は、「科研費の教科書」の英語版作成、学部と連携して外国人教員へ直接支援を呼びかけるなど、外国人教員向けの英語による科研費獲得支援を実施する。【(14)-1-③】 		<ul style="list-style-type: none"> ①オープンイノベーション推進本部は学部・研究科と連携して、若手・女性・外国人教員が採用された際に、新規採用教員の研究環境を整備するため、次の支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ支援経費を配分する（医学部・病院、材料エネルギー学部を除く） ・本学の研究支援体制と制度について情報をまとめて、新規採用教員着任時に周知する。 ・若手教員に対して研究力向上に向けた FD 研修を実施する。 ②全教員の 10 年間の研究活動実績（論文、外部資金）の経時変化を調査して、研究活動強化の要因を分析し、方策を検討する。※2 ③オープンイノベーション推進本部は②の方策について学部・研究科と連携して、若手・女性教員に対して科研費獲得支援（アドバイザー配置による支援と調書ブラッシュアップ支援、あわせて 40 件）、財団などの研究助成情報の提供・フォローアップ・申請書添削などの支援（40 件）を行う。【(14)-1-③】 ④上記取り組みの成果として、令和 6 年度の科研費（若手、女性、外国人）の新規採択目標額 6,000 万円を達成する。 	

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目

自己評価 【目標 1～V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
【戦略 1～IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。</p>	II	<p>研究 IR データを活用し、アクティビティの高い若手研究者を 4 名選出し、うち 2 名に JST 創発的研究支援事業の申請支援を行ったが採択には至らなかった。</p> <p>「採択調書の Web 閲覧システム」の運用を開始するとともに、科学研究費補助金獲得のためのセミナー（2 回実施）と学内支援制度の説明に係る動画をそれぞれ配信した。</p> <p>科学研究費補助金の採択件数・採択額は 298 件・357,807 千円となり、令和 3 年度（321 件・517,768 千円）に比べ減少した。</p>	<p>令和 3 年度から実施する「論文業績に基づく研究費配分」の効果の検証を行っているが、成果に基づく研究基盤経費の新たな配分方法の立案はできておらず、引き続き検証を行う。</p> <p>科学研究費補助金の採択件数・採択額は昨年度より減少しており、研究 IR を活用した URA 等による支援を強力に進める必要がある。</p>
<p>戦略 3 シンクタンク機能を持ったオープンイノベーション推進本部の設置により、研究 IR を強化し、教員個々の研究を含め大学としての研究活動の状況を可視化した上で、メリハリを付けた研究基盤経費の配分方法を検討・実施すると共に、URA 等の支援を拡充して科学研究費補助金の採択件数、採択額の増加を図る。</p>	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①オープンイノベーション推進本部において、研究 IR データを活用して全学及び教員個人の研究活動の状況の経年変化を可視化して、アクティビティの高い研究者を抽出して大型の科研費や政府系外部資金を 2 件以上申請する。【(14)-1-③】</p> <p>②計画①の結果に基づき令和 3 年度に実施した「論文業績に基づく研究費配分」の研究活動の状況変化との関係解析により効果を検証して、研究力強化・外部資金獲得強化に繋がる成果に基づく研究基盤経費の配分方法を立案する。【(14)-1-③】</p> <p>③オープンイノベーション推進本部と研究マネジメント委員会は、科研費を含め外部研究資金に関する全学説明会を実施（科研申請時期と秋以降に合わせて 3 回以上）し、情報の質の改善と本学の支援事業（令和 3 年度に完成した「科研費の教科書」と令和 4 年度に運用を開始する「採択調書の Web 閲覧システム」を含め）の活用を促進して科研費や政府系などの競争的外部資金獲得件数と獲得額の増加を図り、科研費採択件数 320 件、獲得額総額 520,000 千円、一人当たり獲得額 680 千円を達成する。【(14)-1-③】</p>		<p>①各部局はオープンイノベーション推進本部と連携し、学部が組織的に推進する研究分野・課題、それを基に大型外部資金獲得を目指す計画を 6 月末までに作成し、計画に対するロードマップを策定・実行する。令和 5 年度目標：大型の科研費や政府系外部資金を 2 件以上申請。</p> <p>②オープンイノベーション推進本部は年度毎に実施した「論文業績に基づく研究費配分」（令和 3 年度、令和 4 年度実施）の研究活動の状況変化との関係解析の継続と、若手を対象とした教員の 10 年間の研究活動実績（論文、外部資金）の経時変化を調査して、研究活動強化の要因を分析し、研究力強化・外部資金獲得強化に繋がる予算配分方法について立案する。【(14)-1-③】※2</p> <p>③オープンイノベーション推進本部は、科研費を含め競争的研究費獲得に関する説明会を、全学向け・文系理系向けなど部局と連携して 9 月までに 5 回以上実施し、研究費獲得支援制度の周知と活用を促進して競争的研究費の申請率および採択率を向上させて獲得額を増加させる。令和 6 年度目標：科研費採択件数 385 件、獲得額総額 620 百万円、一人当たり獲得額 847 千円。【(14)-1-③】</p>	

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目

自己評価 【目標 I～V】 V.目標を上回る成果が得られている IV.目標を達成している III.目標達成に向けて順調に進んでいる II.目標達成のためには遅れている I.目標達成のためには重大な改善事項がある
【戦略 I～IV】 IV.計画以上の進捗状況にある III.順調に進んでいる II.遅れている I.重大な改善事項がある

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。		自己評価	成果等
目標 1	【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	II	競争的資金の獲得に向けて、e-Rad により申請する研究者に対して、申請書ブラッシュアップなど7件の申請支援を実施するとともに、外部資金（競争的研究費）獲得アドバイザー制度を整備した（令和 5 年度開始）。
戦略 4		II	
研究 IR を活用して本学の強みとなる融合研究領域を創出・発展し、プロジェクトセンターを再構築すると共に、プロジェクト毎に大型の競争的資金の獲得を図る。			課題 / 今後の取組等
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】 ①新規プロジェクトセンターの規程に沿った要項を策定し、同要項により、研究 IR を活用して、本学の特色・強みのある融合的研究分野における新規プロジェクトセンターを設置する。 ②研究マネジメント委員会とオープンイノベーション推進本部は、科研費以外の外部資金について機関単位、個人単位で e-Rad により申請する研究者に対する申請書ブラッシュアップの支援制度を策定して周知し、この支援制度の活用を推進する。		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】 ①オープンイノベーション推進本部は、「競争的研究費支援アドバイザー制度」（年間を通じた支援）を活用して、科研費以外の外部資金について機関単位、個人単位で e-Rad により申請する研究者に対する申請支援を行う。令和 5 年度目標：3 件 3000 万円採択。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
	自己評価		
目標 1	II	成果等	課題 / 今後の取組等
【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。		脱炭素化、SDGs 実現の観点から本学の重点研究テーマとして、戦略的機能強化推進経費（SDGs・カーボンニュートラル推進枠）で 3 件の新規研究テーマを採択した。令和 3 年度からの継続 5 件と併せて SDGs 実現を目指した研究を全学的に推進している。 インパクトランキングの評価項目における研究指標の選定について、スコアの分析を実施し、指標の変更を行った。	引き続き、SDGs 実現を目指した研究を推進し、全学的な戦略に基づき、各部局との連携を強化する必要がある。 インパクトランキングの向上に向けて、具体的な計画を立て、実施する。
戦略 5	II		
全学における重点研究の選定において、SDGs 実現の観点から研究テーマを選定するなど、SDGs 実現を目指した研究を全学的に推進する。			
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		
<p>①研究戦略会議は、オープンイノベーション推進本部・URA による研究 IR などの情報とその分析に基づいて、本学の研究状況を踏まえて、新規プロジェクトセンターの設定において、脱炭素化や SDGs の観点から選択された研究テーマと研究チームを加えて提案し、研究マネジメント委員会において議決する。【独自-2-①②】</p> <p>②戦略的機能強化推進経費の SDGs・カーボンニュートラル推進枠において、脱炭素化、SDGs 実現の観点から本学の重点研究の研究テーマを 5 件選定する。加えて、同経費の研究プロジェクト A、B 枠など他の枠でも SDGs の観点を評価に加えて、本学が SDGs 行動指針に基づいて研究推進における脱炭素化への支援を強化していることを明確化する。【独自-2-①②】</p> <p>③インパクトランキングの評価項目における研究指標の選定について、引き続き妥当性につき情報収集して検討を続ける。</p>	<p>①戦略的機能強化推進経費の SDGs・カーボンニュートラル推進枠の研究テーマのうち、令和 4 年度からの継続分 3 件に研究費を配分して支援する【独自-2-①②】</p> <p>②インパクトランキングの必須評価項目である SDG17「目標達成のためのパートナーシップ」に関する研究を強化し、低所得国または下位・中所得国の大学に所属する研究者が一人以上共著者である国際共著論文数を、令和 4 年度実績 60 報の 20%増である 72 報生産する。</p>		

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
目標 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
<p>【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。</p>	II	<p>世界初の REC の投与を行う医師主導治験「低ホスファターゼ症小児患者を対象とした高純度間葉系幹細胞 (REC-01) 移植の安全性及び有効性を検討する臨床第 I / II a 相試験 (FIH 試験)」を現在行っており、3 例の登録がある。また、現在、REC を製造中である。</p> <p>北海道大学との共同で、新たな治験である「高純度同種間葉系幹細胞 (REC) と硬化性ゲルを用いた腰部脊柱管狭窄症に対する無作為化パイロット試験」を開始した。</p>	
<p>戦略 6 医学部附属病院再生医療センターが有する細胞製造及び調整室を活用し、本学初の医師主導治験を目指す等、臨床研究の推進を図る。</p>	III		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①REC を世界で初めて患者さんに投与する。また、REC を用いた新たな治験を開始する。</p> <p>②新規治験に向けて、REC の有効性を示す新たな非臨床 POC を実証する。</p>		<p>①REC の投与を行う医師主導治験「低ホスファターゼ症小児患者を対象とした高純度間葉系幹細胞 (REC-01) 移植の安全性及び有効性を検討する臨床第 I / II a 相試験 (FIH 試験)」、北海道大学との共同実施の治験「高純度同種間葉系幹細胞 (REC) と硬化性ゲルを用いた腰部脊柱管狭窄症に対する無作為化パイロット試験」の件数 (それぞれ 2 件、5 件) を増やすとともに、REC を用いた新たな治験に向けて取り組み (2 件) を行う。</p> <p>②REC によるミトコンドリア病への有効性を明らかにする。</p>	

6

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
目標 2	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
【世界で尖る研究を推進する】 本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する。	III	令和 4 年度までの 5 年間で着実な進捗が認められ、令和 4 年度地方大学・地域産業創生交付金「展開枠」に申請していた提案「先端金属素材グローバル拠点の創出～Next Generation TATARA Project～」が採択された。 令和 4 年度の外部資金獲得額は 132 百万円となった（基準値：令和 2 年度 74 百万円）。	材料科学（総合）分野における論文数は 12 編（うち Q1 論文数 6 編）となり、令和 3 年度の論文数 31 編（うち Q1 論文数 23 編）よりも減少した。研究活動を論文生産や国プロなど大型競争的資金の獲得に結び付けていく戦略が必要である。
戦略 1	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
内閣府地方大学・地方創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出～Next Generation TATARA Project～」を着実に進捗させると共に、自走期間に向けて研究・財務基盤を強化する。	II		
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<ul style="list-style-type: none"> ①専任教員、兼任教員の材料科学（総合）分野における論文を 48 編（うち Q1 論文 18 編）創出する。 ②NEXTA プロジェクト推進室を中心に、展開枠への申請、国プロなど大型競争的資金獲得のための戦略及びロードマップを策定する。 ③NEXTA プロジェクト推進室を中心に、金属関連企業への研究営業活動を強化し、NEXTA 専任・兼任教員による共同研究等の件数を 12 件以上、外部資金獲得額 140 百万円を達成する。【①-1-①】 		<ul style="list-style-type: none"> ①NEXTA 専任・兼任教員の材料科学（総合）分野における Q1 論文を 19 編、総論文数 62 編を創出する【①4-1-②】。 ②「NEXTA 国プロ獲得戦略会議」にて検討した国プロなど大型競争的資金獲得のための戦略に基づき、ロードマップを基にプロジェクトマネージャー及び URA の採用により体制を構築し、プロジェクト推進室を中心とした情報収集、連携支援を強化して採択に繋げる。 ③NEXTA プロジェクト推進室を中心に、金属関連企業への研究営業活動を強化し、企業との共同研究件数 8 件、NEXTA 専任・兼任教員による外部資金獲得額 140 百万円を達成する。【①-1-①】 	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
目標 2	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
【世界で尖る研究を推進する】 本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する。	III	外部資金獲得額、国際共著論文、Top10%論文（直近 10 年間）、論文数及び被引用件数は、令和 4 年度の目標値だけでなく、令和 5 年度の目標水準を超える実施値となった。	
戦略 2 エスチュアリー研究センターを核として実施している宍道湖・中海を含む斐伊川水系沿岸域を対象とした水域環境研究を本学の基幹研究として重点支援することにより研究力を高め、国内外から多くの訪問研究者や大型競争的資金を獲得することができるエスチュアリー研究分野のグローバル研究拠点を形成する。	IV	招致を行ってきた国際集会在令和 6 年度秋に松江で開催されることが決定しており、グローバル研究拠点の形成に向けて取り組みを推進している。	
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
①エスチュアリー研究センターでは、外部資金獲得額 54,400 千円、国際共著論文 80 編、Top10%論文（直近 10 年間）14 編、論文数や被引用件数で上位となる国内の 7 大学（東京大学、京都大学、北海道大学、東北大学、九州大学、広島大学、島根大学）において 2 位以内を達成する。【⑭-2-①②③】 ②エスチュアリー研究センターでは、前年度作成した国際戦略ロードマップに従い、オンラインを含む国際集会を 1 回以上開催し、また海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 4 名以上を達成する。		①エスチュアリー研究センターでは、外部資金獲得額 55,000 千円、国際共著論文 85 編、Top10%論文（直近 10 年間）16 編、論文数や被引用件数で上位となる国内の 7 大学（東京大学、京都大学、北海道大学、東北大学、九州大学、広島大学、島根大学）において 2 位以内を達成する。【⑭-2-①②③】 ②エスチュアリー研究センターでは、国際戦略ロードマップに従い、対面式あるいはハイブリッドの国際集会を 1 回以上開催し、また海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 5 名以上を達成する。またユネスコの IGCP にエスチュアリープロジェクトの申請を行う。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。			
目標 2	自己評価	成果等	課題 / 今後の取組等
【世界で尖る研究を推進する】 本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する。	III	水域環境分野では7名のポスドク及び研究員の来訪者を受け入れるとともに、Q1 論文数は 18 編となり、令和 4 年度の目標を達成した。	
戦略 3 材料工学及び水域環境分野において、国内外からポスドク、短期・長期研究員を招聘し研究の活性化を図ると共に、その成果を国際会議やワークショップを開催することにより発信するなど、国際的研究拠点として世界からの認知を得る。	III	国際的研究拠点として世界からの認知を得るため、国際会議等の開催にも取り組み、材料工学分野では、オックスフォード大学教員による研究会議やロンドン大学教員を招いた研究セミナーを開催した。また、水域環境分野では、日中韓の国際セミナーをオンラインで開催した。	
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
①NEXTA では、海外からの研究者招聘や Web を活用した国際共同研究を推進し、海外大学との共著論文を 10 編刊行する。 ②NEXTA では、Web of Science での NEXTA の所属が明記された論文において、13 編の Q1 論文を刊行する。【(14)-1-②】 ③NEXTA では、海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 4 名以上を達成する。 ④エスチュアリー研究センターでは、海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 4 名以上を達成する。 ⑤エスチュアリー研究センターでは、Web of Science でのセンターの所属が明記された論文において、10 編の Q1 論文を刊行する。【(14)-1-②】 ⑥NEXTA では、オンラインを含めた国際集会・会議を 2 回以上開催する。 ⑦エスチュアリー研究センターでは、オンラインを含めた国際集会・会議を 1 回開催する。		①NEXTA 専任・兼任教員は、海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者招聘（5 名以上）や Web を活用した国際共同研究を推進し、海外大学との共著論文を 10 編刊行する。 ②NEXTA では、若手教員の論文作成を関係教員・推進室が支援し、論文数を増やす（論文数：令和 4 年度 0 編、令和 5 年度目標数 3 編）。 ③NEXTA では、兼任教員の材料科学分野における論文作成を、目標値設定・進捗管理および兼任教員増加により倍増させる（論文数：令和 4 年度 8 編、令和 5 年度目標数 16 編）。 ④エスチュアリー研究センターでは、海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 5 名以上を達成する。 ⑤エスチュアリー研究センターでは、Web of Science でのセンターの所属が明記された論文において、10 編の Q1 論文を刊行する。【(14)-1-②】 ⑥NEXTA では、対面式あるいはハイブリッドの国際集会・会議を 2 回以上開催する。 ⑦エスチュアリー研究センターでは、オンラインを含めた国際集会・会議を 1 回開催する。令和 6 年秋に松江で開催される国際集会の準備委員会を立ち上げる。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。		自己評価	成果等
目標 3	【産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する】 産学官金連携による研究を推進するための体制強化とテクノロジー・プルの研究を推進することにより、本学の研究成果の社会における応用や実用化に向けた取り組みを強化する。	III	知的財産や社会実装を意識した研究テーマの設定を促すため、研究成果の社会実装に関する FD（参加者 40 名）、起業利益相反セミナー「大学発スタートアップの始め方と、利益相反という思わぬ落とし穴」（参加者 63 名）を開催した。 科研費、共同研究以外の外部資金獲得額は、937,776 千円（基準値 879,147 千円、H29～R1 平均比 6.7%増）、共同研究は 318,106 千円（基準値 187,634 千円 H29-R1 平均比 69.5%増）となった。 テクノロジー・プルの研究は、17 件（基準値：令和 2 年度 11 件、6 件増）となった。
戦略 1	オープンイノベーション推進本部の設置により産学官金連携に関する URA 機能を強化し、地域未来協創本部と共同で多様な企業のニーズを調査、発掘、把握して本学におけるシーズとのマッチングを図ると共に、全学的にテクノロジー・プルの研究を推進する。その成果として産学連携による共同研究等を強化し、外部資金の獲得を増加させる。	II	「学術・技術指導」制度の周知利用を進め 12 件実施（令和 3 年度実績 3 件）したものの、共同研究・受託研究へ発展しなかった。 産学連携による共同研究等の強化、外部資金の獲得に向けて、URA 機能を強化し、更なる企業のニーズの調査と、本学におけるシーズとのマッチングを進める必要がある。
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①URA、産学連携担当教員、産学連携コーディネータが企業訪問や技術相談、経済団体から得た県内外企業等のニーズ情報と対応の状況を経時的に共有するシステムを構築し、複数関係者によるニーズの適切な把握と学内教員へのマッチングを進め、共同研究などの達成率を 10%にする。【(23-1-①)】</p> <p>②オープンイノベーション推進本部は、学内教員に企業のニーズを紹介するとともに、知的財産や社会実装を意識した研究テーマの設定を促すための知財セミナーの開催（1 回以上）と教員訪問時に助言を行い、テクノロジー・プル型の研究を 20 件実施する。【(23-1-①)】</p> <p>③オープンイノベーション推進本部は、共同研究や受託研究などの交渉を円滑に行える様に経費と研究内容などに係る相談助言を教員に行い、企業との交渉を主導する。具体例として、島根県産業振興財団など外部機関とも連携し企業等への「学術・技術指導」制度の一層の周知利用を進め 5 件実施するとともに、そのうち 2 件を共同研究・受託研究に発展させる。【(23-1-①)】</p> <p>令和 4 年度目標：科研費共同研究以外の外部資金 967,000 千円（基準値の 110%）、共同研究 250,000 千円（基準値の 133%）</p>		<p>①オープンイノベーション推進本部は、「知的財産や社会実装を意識した研究テーマの設定を促すための知財 FD 動画」を作成する。</p> <p>②オープンイノベーション推進本部は、テクノロジー・プル型の研究を推進するために実行計画①で作成した動画の活用と教員訪問時に助言を行う。【(23-1-①)】</p> <p>③オープンイノベーション推進本部は、共同研究や受託研究などの経費と研究内容などに係る相談助言を教員に行い、企業との交渉を主導する。</p> <p>④令和 5 年度目標：①～③を通じて、テクノロジー・プル型の研究を 20 件実施するとともに、「科研、共同研究以外の外部資金獲得額」を基準値（平成 29 年度～令和元年度平均）から 20%増加（1,054,976 千円）、共同研究費を同基準値から 85%増加（347,123 千円）させる。【(23-1-①)】</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。		自己評価	令和 4 年度実行計画 検証
目標 3	【産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する】 産学官金連携による研究を推進するための体制強化とテクノロジー・プルの研究を推進することにより、本学の研究成果の社会における応用や実用化に向けた取り組みを強化する。	III	成果等 課題 / 今後の取組等
戦略 2	企業の開発・研究担当者を招いたニーズ・シーズ発表会の開催等、企業担当者と大学教員や URA が直接お互いのニーズとシーズ等をマッチングできる機会を設ける。	II	企業の開発・研究に携わる担当者を招いて研究発表会を 7 回（技術コミュニティラボ 2 回、NEXTA フォーラム 5 回）開催し、意見交換を行った。 教員シーズの企業へのマッチングとして URA（知財担当教員）による直接的な技術移転活動を実施し、食品試料提供契約（1 件）、花卉試験栽培契約（3 件）、特許譲渡契約（1 件）、共同研究（2 件）を締結した。
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
①企業の開発・研究に携わる担当者を招き、ニーズ・シーズ発表会（セミナー）や組織的な技術相談や意見交換会を 5 回開催し、企業担当者と大学教員や URA が直接お互いのニーズとシーズ等のマッチングを強化して、テクノロジー・プル型の研究を 20 件実施する。		①企業の開発・研究に携わる担当者を招き、ニーズ・シーズ発表会（セミナー）や組織的な技術相談や意見交換会を 5 回開催し、企業担当者と大学教員や URA が直接お互いのニーズとシーズ等のマッチングを強化して、テクノロジー・プル型の研究を 20 件実施する。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 4 年度実績の検証及び令和 5 年度実行計画の策定について

研究ビジョン		令和 4 年度実行計画 検証	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。		自己評価	成果等
目標 3	【産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する】 産学官金連携による研究を推進するための体制強化とテクノロジー・プルの研究を推進することにより、本学の研究成果の社会における応用や実用化に向けた取り組みを強化する。	III	広島大学 PSI プロジェクトの Gap ファンドへの申請を支援し、5 名申請者のうち 1 名が採択された。
戦略 3		III	
令和 4 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	
<p>①オープンイノベーション推進本部は研究 IR 等を活用して、本学の研究成果を分析し、起業化の可能性のある研究成果を 3 件発掘する。</p> <p>②オープンイノベーション推進本部は地域未来協創本部、関係機関・自治体等と連携して全学におけるスタートアップを支援する体制・制度を構築する。</p> <p>③オープンイノベーション推進本部は、広島大学を中心に中国四国地方の大学等が連携して採択されたスタートアップエコシステム事業である PSI プロジェクトの共同機関として、同プロジェクトの Gap ファンドへの本学研究者の獲得を支援する（目標 5 件以上）。</p> <p>④オープンイノベーション推進本部は、教員のためのアントレプレナーシップに関する公開講座などを 1 回以上行う。</p>		<p>①オープンイノベーション推進本部は研究 IR 等を活用して、本学の研究成果を分析し、起業化の可能性のある研究成果を 3 件発掘する。</p> <p>②オープンイノベーション推進本部がスタートアップ支援窓口となり、起業に関心を持つ教員に対して起業の手引き書を作成・配布し、GAP ファンド・事業計画の検討相談は学外機関の支援制度へ接続する。令和 5 年度目標：GAP ファンド（広島 PSI 事業を含む）と事業計画相談を合わせて外部接続 7 件。</p> <p>③オープンイノベーション推進本部は、広島 PSI ecosystem（広島大学を中心に中国四国地方の大学等が連携して採択されたスタートアップエコシステム形成支援事業）の GAP ファンドへの本学研究者の獲得を支援する。令和 5 年度目標：申請 5 件、採択 3 件。</p> <p>④オープンイノベーション推進本部は、教員のためのアントレプレナーシップに関する公開講座を 2 回以上行う。令和 5 年度目標：参加者数合計 50 名。</p>	